

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1 会 議 名	令和 6 年度 第 5 回 姫路市総合教育会議
2 開催日時	令和 7 年 2 月 20 日（木）15 時半～16 時半
3 開催場所	姫路市役所本庁舎 10 階 第 4 会議室
4 出席者又は欠席者名	〔構成員〕 清元市長、久保田教育長、中野教育長職務代理者、山下教育委員、森下教育委員、 角谷教育委員 〔関係者〕 山田副市長、福田政策局長、平田教育次長、平山教育次長 〔事務局〕 高等教育室：高橋室長、中田主幹、篠原課長補佐、黒川主任 教育委員会事務局：松本教育総務部長、濱田総務課長、藤保教育企画室主幹、島田総務課係長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴人なし
6 議題又は案件及び結論等	姫路市教育大綱の改定について
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

政策局長	1 開会 令和6年度第5回姫路市総合教育会議を開会する。
市長	2 挨拶 (市長挨拶) 本日の議題は「姫路市教育大綱の改定について」である。今年度は、教育大綱の改定ならびに第3期教育振興基本計画の策定の年度ということで、皆さまにはこれまで4回にわたって、さまざまな角度から本市の教育のあり方について熱心に議論いただき、前回の会議では、教育大綱の素案に対し、示唆に富んだ、貴重なご意見をいただいた。また、昨年12月20日から1か月間、パブリックコメントを実施し、合計で43件のご意見が寄せられた。 私はこのたびの改定にあたって、不確実な時代だからこそ、新しい教育大綱は、教育に携わる方だけでなく、子どもたちや市民の皆さまが折に触れて読み返すようなものになりたい、そして、新たな教育大綱のもとで、たくさんの方々と行政がつながり、未来に向けて建設的に人を育てていくという観点で、本市の教育が花開いていくものになれば、と思っている。パブリックコメントをそれぞれ拝読したが、さまざまな視点から、思いのこもったご提言をいただき、改めて、身の引き締まる思いである。 本日は、今年度の最終回となるが、前回の会議でいただいたご意見とパブリックコメントを踏まえた、教育大綱の最終案をお示しする。限られた時間ではあるが、子どもたちのための、また本市の未来のための活発なご議論をお願いする。
教育長	(教育長挨拶) 先日、教育長の会合において、総合教育会議の回数が話題となり、本市の開催回数に驚かれるということがあった。数が多ければいいということではないが、来年度も引き続き密な連携をお願いしたい。 今年度、教育委員会では、第3期姫路市教育振興基本計画を策定している。「未来をひらく ふるさと姫路の人づくり～すべての人が自分らしく学び、つながる教育をめざして～」を基本理念とし、計画案について、去年12月20日から1か月間、パブリックコメントを実施したところ、不登校児童生徒への対応や、ICT活用と探究プロセスを踏まえた授業づくりなどについて、幅広い視点から、50件の貴重なご意見をいただいた。これらを踏まえて修正を加えた計画案について、先週、定例教育委員会に報告し、了承いただいたところである。姫路市教育大綱は、教育振興基本計画やこども計画等の各分野の個別計画との整合性を図りながら策定するものである。どう社会に浸透させていくかというところが重要であり、幅広いご意見をいただきたい。
政策局長	3 出席者紹介
政策局長	4 議事 姫路市教育大綱の改定について
市長	資料1「姫路市教育大綱（案）に関する市民意見提出手続（パブリックコメント）の実施結果について」及び資料2「姫路市教育大綱（案）」説明
市長	基本方針V「歴史・文化を大切にし」とあるが、「たいせつ」と平仮名で表記した方がいいのではないかな。漢字で書くと、「大きく切る」というイメージを与えることがあるかもしれない。

委員	6 ページに「競技者と観客に感動を与える大会やイベント」とあるが、感動は、与えるものではなく、受け手が感じるものである。「感動をもたらす」などの表現の方がいいのではないか。 また、7 ページの「文化芸術の振興」は、基本方針Ⅳの「豊かな心身を育む機会」と強くリンクする項目であると思う。スポーツと文化芸術の両方によって豊かな心身が育まれると考える。
市長	コロナ禍を経験し、人は、スポーツと芸術から生きる力を得るということを強く感じている。
副市長	文化芸術の例としてル・ポン国際音楽祭の写真が挙げられているが、これなどはまさに豊かな心身を育むものである。基本方針Ⅳは、人生のあらゆるステージにおいて豊かな心身を形成する話であり、基本方針Ⅴは、これまで紡いできたものを次世代に継承していく話である。 「文化芸術の振興」の2 段落目は基本方針Ⅴの内容で、1 段落目は基本方針Ⅳに関連する内容である。
市長	部活動の地域展開によって、運動部だけではなく、吹奏楽部などの文化部も「姫カツ」に移行する。そういう意味でも、スポーツと文化芸術は同じ項目の中で記載する方がよい。
副市長	「競技者と観客に感動を与える大会やイベント」という表現は、「感動がなければスポーツの意味がないのか」という印象を与えかねない。 また、「誰もがスポーツの『する』『みる』『ささえる』価値を享受できる」ということがポイントである。「競技者と観客」を記載する必要はないのではないか。「さまざまな大会やイベント」としてはどうか。
委員	「する」に「身近で安全に取り組める環境づくり」が、「みる」に「大会やイベントの開催」が、「ささえる」に「スポーツを支える人材の育成」が対応していると理解している。「競技者と観客」を記載すると、「する」と「みる」の2つの視点を表現しているようになってしまうので、分かりにくい。
委員	演劇でも、演者や台本係、道具係、照明係、観客など、それぞれの立場の人が、全員で一つの舞台をつくりあげる。表舞台に立つ人と観客だけの話ではない。
市長	スポーツでも芸術でも食文化でも、支える人や教える人を含めて考える意識が重要である。
委員	決まったことだけを教えるのは簡単であるが、子どもたちは、生活の中の小さな発見に寄り添ってもらって自信をもつという経験を積み重ねることが、生きる力につながる。周りの大人や教員は、子どもたちのパートナーとして、それぞれの子どもに合う形になるように、教育のやり方を柔軟に変更していくという要素が大綱の中に必要だと思う。子どもたちのすべてのつながりを大切にしながら、連携し、教育が新しいかたちになるといった表現はどうか。
教育長	「はじめに」でも、「本市の教育のあり方を常に見直し、時代に即したものにアップデートし続けなければなりません。」ということを打ち出している。
委員	それをもう少し本文の方に盛り込めればと思う。よい経験の積み重ねが、自分は

	幸せだと思える人生につながっていくということを発信したい。
市長	教育では、子どものいいところを見つけて伸ばしていくことが基本であるはずなのに、他人の粗探しをしてインターネット上で叩くといったことが横行し、一方で、十代の自殺が増加している。失敗や挫折があっても、何度でもやり直せるというレジリエンス（回復力、しなやかさ）を育成したい。
政策局長	「はじめに」は、挨拶文ではなく、教育大綱の冒頭において発信するメッセージとして位置づけているので、それも含めて全体の中で検討したい。
委員	7 ページの「歴史・文化の継承」の1行目に「学ぶ機会を充実する」とあるが、「学ぶ機会を充実させる」が正しいのではないか。基本方針Ⅳのタイトルも「豊かな心身を育む機会を充実します」となっている。3ページにも「情報活用能力の育成などを充実します」とあるが、本文の中で「充実します」が出てくると違和感がある。
政策局長	それについては、これまでもさまざまな計画の策定過程で議論してきた。主体的に行政を遂行するという観点で、行政の計画等では「充実します」を使用することが多いが、今一度、本文については言い換え等について検討したい。
委員	資料1で「姫路市の独自性」や「姫路市ならではの」などの言葉があるが、教育委員会だけではなく、さまざまな関係部局が連携し、ぜひ、姫路の教育の地域性を出していただきたい。
政策局長	「はじめに」の中でも、「本市ならではの地域の絆」と記載している。本市の特色である、活発な地域コミュニティを生かせるような施策を展開していきたい。
教育次長	教育大綱及び教育振興基本計画に対するパブリックコメントを通して、市民の方々の教育に対する大きな期待を重く受け止めている。教育現場にしっかりと伝えていきたい。
教育次長	教育大綱の改定及び第3期教育振興基本計画の策定にあたっては、事務局間で密に連携しながら進め、また、市民意見反映のプロセスも適切に行われたと考える。この教育大綱のもとで本市の教育が発展していくことが強く期待されていることを認識しており、引き続き実りある施策を推進していきたい。
副市長	教育大綱は策定して終わりではなく、今後どのようにフォローアップしていくかということが課題である。教育委員会と市長部局がしっかりと連携し、大綱の方針を施策の中で実現していきたい。
教育長	基本方針Ⅲの主語は姫路市でありながら、社会全体による取組である。教育委員会と地域との連携を密にして、社会全体で子どもの健やかな成長を支えていきたい。教育大綱を策定したところがスタートで、ここから始まるということを強く認識している。
市長	教育大綱の方針を形にするために市長部局としてできることは、予算と人員を充当することである。EBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング）、つまり科学的根拠に基づいて政策を立案することが重要であるが、計画を立て、それに沿って進めていくことが正解とは限らない。もっと少子化や過疎化が進み、教

政策局長	育上の大きな問題点が出てくるかもしれない。1年の予算を立てて事業を遂行していく中で、常に、客観的データに基づき、予算配分を見直しながら進めていくべきである。 たくさんのご意見をいただき、令和の時代にふさわしい教育大綱ができたと考える。ここから地図を持ってスタートするという観点で進んでいきたいと思う。 5 閉会 令和6年度第5回姫路市総合教育会議を閉会する。
-------------	--